

司 会
祈 禱
奏 楽

賛 美 聖歌472番「人生の海のあらしに」
(花咲く野原のように) (主にハレルヤ)

ヤベツの祈り・3つの愛

聖 書 ①② コリント人への第二の手紙1章3～7節 (P278)
③ マタイによる福音書4章12～17節 (P4)

音 楽 カルテット・ベセル (V)

誕生祝福式

メッセージ ①② 「慰めに満ちたる神」 久保田豊副牧師
③ 「日本の近代化は宗教改革のおかげ」 大川従道主任牧師
(齋藤孝著より)

賛 美 「歌いつつ歩まん」(聖歌498番) 献金・アンテオケ宣教会
頌 栄 「父・み子・み霊の」(聖歌383番) アーメン
祝 禱

「しかし私にとって神のみそばにすることが幸せです。私は神である主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語り告げます。」(詩篇七十三の二十八・新改訳2017)

【大和ニュース】

- * 自粛生活が続きます。三密にご注意！主との関係はハチミツで！
 - * 今年も半年守られたことを感謝し、「上半期感謝献金」を捧げましょう。袋は受付に。
 - ・ 本日、駐車場奉仕者会(12:30 シャローム館)、J.plus(青年・学生・中高生)オンライン。
 - ・ 今週も祈禱会を大切に！①水曜夜7時 ②木曜朝10時半。説教は佐々木副牧師。
 - ・ 「断食祈禱日」は、金曜9時～15時。部分参加も可。6人の説教者。祈りましょう！
 - ☆「英語礼拝」は、森チャペルにて。土曜14時。日本語通訳あり。予約制。
 - ・ まだヒズブランドは閉店中。ロビーで良き本等が販売されています。
- 倉知先生(バイオリン小山兒)のCD「River 静まりといやしの音楽」が発売。1000円。

石の枕

もう7月！「少年老い易く学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず」。

今日は、37年前の新聞に連載された日野原先生の原稿拝借で失礼します。

私の『老いを創める』は、ブーバーの影響。「この齢にして、これまでの考えをいっさい処分し、すべてを新しい目でみつめ、すべてを新たな面から考え直していきたい」といったブーバーの言葉が私の脳に焼き付いてしまった。

彼が75歳の高齢で出版した著作「かくれたる神」にはこう記されている。

「…年老いているということは、もし人がはじめるということの意味を忘れていなければ、すばらしいことである。これをこの老いた人は高齢に達して初めて根本的に学びとっていたのだ。彼の物腰は若くなく、年相応に老いてはいたが、しかし、若々しい、はじめるということを知っている仕方が、老いていないのだ」

人生を4つに分けると、第1は個体の誕生。第2は思春期の自我の誕生。第3は成人式の社会的誕生。第4は定年退職後に解放された自我への誕生だ。

第4の「我」は、責任や地位を若い世代に譲り、引退をやむなくされる。しかし、この転換期にこそ、自適（マイ・ペース）での最後の自我表現の機会が与えられる。

日本の老人がもっと合理的な生活保障制度下で第4の自己を誕生させる最後の山登りにアタックすることができれば、老後といわれて来たものを、「老いを創める」過程に切り替えられるのではなからうか。

徳富蘆花は、「人生百とすれば、五十は半ば、峠です。私は峠に来ました。峠といって向こうは下りとは決まりません。ヤコブの夢の天にかけられたはしご（創世記28章）のように、山の上に山あり、山の奥にも山がある。人の生の旅はただ登りです」と、随筆集「新春」に書いた。

定年退職が、下りでなく、それからまた一つの登りになる。しかも自分の身を防御したり、飾る付加物を付けずに、裸の自己となって、身についた知恵と技とを世のために還元する業をはじめることができれば、それこそ創造的引退がはじめられるのではなからうか。身を引く引退でなく、創める引退に…。

☆最近定年後、神学校で学びたい人が次々と起こされている。

ああ、「主の不思議」が始められているようだ！

宿題（祝大） 今週もむさぼるように聖書を読みましょう！

Aコース:使徒12章～16章 Bコース:ヨブ記29章～詩篇3篇